

**公益財団法人8020推進財団**  
**平成28年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録**

1. 事業名：若者のセルフケア行動の向上につながる歯科保健啓発のためのアンケート調査  
(歯学部学生との連携事業)

2. 申請者名：一般社団法人 仙台歯科医師会  
代表者名 駒形 守俊  
担当者名 平田 政嗣

3. 実施組織：(一社)仙台歯科医師会・仙台市歯と口の健康づくりネットワーク会議・東北大学

4. 事業の概要

壮年期から高齢期における歯と口の健康維持には、若いころからの健康意識とセルフケアの向上が必要不可欠であることは論をまたない。仙台市においてもその趣旨のもと 20 歳のデンタルケア健診事業をはじめとする啓発活動を実施しているが、十分に浸透しているとは言えない現状である。そこで今回、それら若者世代に対して、歯科保健に対する意識調査を行い、セルフケア行動の妨げとなっている要因の検討を実施したい。実施に当たっては、若者が集まる大学祭や各種イベントでの実施を検討する。調査によって得られた情報は、20 歳のデンタルケア事業の受診率向上につながる啓発媒体の作成や、現在実施されている「仙台市歯と口の健康週間 市民のつどい」をはじめとする歯科保健啓発事業の内容検討に生かしたい。本事業が若者世代へのテコ入れとなり、すべてのライフステージにおける歯科保健行動の向上につながる事業の一助となれば本事業の目的が達せられたといえよう。

5. 事業の内容

1. アンケート調査事項の検討
2. アンケートの実施
3. 調査内容の集計と分析
4. 分析結果の有効活用方法の検討

6. 実施後の評価（今後の課題）

今回、若者の歯科保健行動につながる要素は何かを調査する目的でアンケート調査を実施した。「お口の中のことについて興味がありますか」の項目では、男女問わず約 9 割が興味あるとの結果であった。しかし、半年以内に歯科医院に通院している割合は男性で約 3 割、女性で約 5 割と行動には十分につながっていないことが見受けられる。

青年期から壮年期にかけては、口腔の健康リスクは比較的 low、この時期に問題となるのは経済的・社会的要因によって歯科保健活動が中断することにある。特に 20 代後半から 40 代までは就職・結婚・出産子育てなど健康以外にも考慮すべき要因が増加する時期である。まだ、社会的・経済的に選択の余裕のある 20 代前半に何らかの保健指導を行い支援していく必要がある。生活習慣病は小児期からリスクが蓄積していった結果であり、保護者の加護から離れ始める 20 代前半にテコ入れする意味は大きい。

若者ほどファッションやトレンドを TV・雑誌・ネットから情報を得ている傾向が強い。また、今回の調査でそれらの媒体から発信されている歯と口の広告に対して意識していることが分かった。歯科保健行動が健康に直結することを啓発していくことは当然必要である。しかし、TV・雑誌・ネットなどにおけるキーワードを健康教育に取り入れていくことや、歯科治療・予防の推進を前面に出すのではなく、トレンド・ファッション・エチケットとして興味喚起の糸口と考える必要もあろうかと思う

今回の調査結果をさらに精査し、若者の歯科保健行動の向上につながる啓発媒体の作成や啓発活動の検討を行うことが今後の課題といえる。